

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|--|--|
| 評価項目1 | 学校教育目標の設定・共有 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はB（76.9%）であった。 | |
| 評価指標 | 全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向けて努力する。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ア、イ（下記自己評価の基準を参照 以下同じ）の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 「全体方針・ビジョン」及び各分掌の「具体的目標」にしたがって、検証票の副校長提出を義務づけ、月ごとの検証と改善の計画実施を促した。 | |
| 自己評価 | B (84.1%) | [反省・意見] ・達成目標には達しなかったが、%が7ポイントほどアップした。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者評価 | B | [意見・提言]・評価ポイントが上がったことはよいことだと思われる。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | B | [意見・提言] ・達成率が上がり、ほぼ目標に近づいていることは評価できます。 ・今後提出された検証票をもとに取り組みの価値付けすることなどにより、取り組みへの意欲を高める工夫が必要だと思われます。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 後期始業式などで目標の再確認を行い、年度はじめの気持ちを新たにする。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|---|--|
| 評価項目2 | 組織の充実・校務分掌の明確化 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はB（72.0%）であった。 | |
| 評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や重点目標を達成するため、各分掌の役割や取り組み内容を明確にする。 ・組織的に連携するため、自己の職務の検証と他の分掌への提案を行う。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 国体協力のため、開催期間中は手薄になった業務があった。 | |
| 自己評価 | B (72.3%) | [反省・意見] ・いわて国体が開催され、ぎりぎりの人員で乗り切ったという感じがする。九〇周年記念行事は、組織がかみ合い成功させることができた。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者 評価 | A | [意見・提言] ・九〇周年行事は盛大かつ厳粛に開催できた。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | B | [意見・提言] ・いわて国体で人員が滞りながら、九十周年記念行事を成功させることができたことは評価できます。 ・この成功要因を分析して今後活かすことで、組織力のアップにつながると思います。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 情報共有、連絡、申し送りを徹底する。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|--|--|
| 評価項目3 | 学年・学級運営の充実 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はB（69.8％）であった。 | |
| 評価指標 | 学年団は、教育目標や重点目標を把握し、生徒の居場所となる学校や学級づくりに努力している。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ①□学強化土曜日ごとに学年情報交換会を行う。 ②月に1度学年集会を行う。 ③月に1度大掃除を行う。 ④2者面談、3者面談を1年にそれぞれ最低1回行う。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85％以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。 | |
| 自己評価 | B (64.2%) | [反省・意見] ①は土曜日には大会などで学年団がそろわないという意見が出た。 ③は重点ポイント（この日は廊下徹底、この日はロッカー徹底など）を設定しては？という意見があった |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者評価 | B | [意見・提言] ・改善にに向けて具体策を。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | C | [意見・提言] ・一昨年、昨年、今年と年々自己評価が下がっていることが気になります。学校全体で、それぞれの活動の意義を共有することが大切だと思います。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 重点的な清掃ポイントの設定。学年団が会議時間を持てるような時間割の工夫。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85％以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60％以上、85％未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40％以上、60％未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40％未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|---|---|
| 評価項目4 | 教育課程の円滑な推進 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はA（87.2%）であった。 | |
| 評価指標 | 各コースごとに特色ある教育課程の編成に努めている。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ① 授業交換のしやすい時間割を組み、自習を前年より5%減ずる ② クラス分けを工夫し、効果的な時間割編成をする。 ③ 生徒の現状を考慮し、各コースの見直しを行う。 ④ 特進系はセンター試験を、総進系は推薦入試を目標とした効果的なカリキュラムが組まれている。 ⑤ EXは中高一貫教育の効果的なカリキュラムが組まれている。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 上記①～⑤を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。 | |
| 自己評価 | A (85.0%) | [反省・意見] ・アクティブ・ラーニングは導入期としてはおおむね良好。全体に広げたい。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者評価 | A | [意見・提言] ・新しい時代の学校作りに向けて努力してほしい。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | A | [意見・提言] ・昨年より自己評価のポイントはやや下がったものの、高いパーセンテージを維持していることは評価できます。 ・アクティブ・ラーニングに対する教員の温度差を縮めることが、今後の課題になると思われます。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 授業の互見。アクティブ・ラーニングの推進。研究授業の実施。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|---|---|
| 評価項目5 | 教科指導の充実 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はA（85.3%）であった。 | |
| 評価指標 | 生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫・検証・改善が行われている。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ①□授業評価アンケートの結果を年に2回、各科で検討し、その都度改善策を検討する。 ② 英検、漢検の目標合格率を定めてクリアする。 ③ 計画的に宿題・課題を出し、家庭学習の習慣が定着するように工夫する。 ④ 授業改善、アクティブ・ラーニングの積極的導入。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。 | |
| 自己評価 | B (82.1%) | [反省・意見] ・アクティブ・ラーニング、授業改善は緒についたばかり。漢検、英検のほかにもTOEICブリッジを実施。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者評価 | A | [意見・提言] ・時代の要請にしたがって取り組んでいると認められる。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | B | [意見・提言] ・新しい取り組みが始まったばかりなので、本当の評価は次年度以降になると思われる。 ・アクティブ・ラーニングの意義や重要性を学校全体で共有して取り組むことを期待します。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 一丸となった授業改善。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|--|--|
| 評価項目6 | 生徒指導の充実 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はB（80.8%）であった。 | |
| 評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が共通理解のもとに統一的な生徒指導を行っている。 ・情報交換が常になされ、全教職員が問題を共有している。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ① 遅刻者数1日10以下。 ② 服装違反0。 ③ 頭髪違反0。 ⑤ 挨拶指導の徹底。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。 | |
| 自己評価 | B (83.6%) | [反省・意見] ・昨年発足したいじめ防止対策委員会が機能し、組織的に対応できた。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者評価 | A | [意見・提言] ・生徒が安心できる学校が構築されていると認められる。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | A | [意見・提言] ・子どもたちと先生の良い関係は維持できていると思います。特に中学校の改善が顕著です。 ・今後も積極的に情報発信をすることで、子どもたち・保護者への信頼をより高めたいと思います。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 生徒、保護者が全面的に信頼を寄せる学校の構築。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|--|---|
| 評価項目7 | 進路指導の充実 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はB（63.5%）であった。 | |
| 評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を向上させるため、朝学習や家庭学習の習慣の定着をはかる。 ・放課後講習を実施し、模試の分析などによって現役合格率を上げる。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ①センター目標値を定めてクリアする。 ②現役合格目標値を定めてクリアする。 ③中学全国模試の目標点を定めてクリアする。 ④□特進系は国公立大学及び医歯薬系学部合格者、合わせて在籍者の50%以上。 ⑤総進は課題未提出5%以下。 ⑥ 高3第1回進路希望調査の第1希望実現率が50%以上。 ⑦就職内定率100%。 ⑧情報の全員共有。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 上記①～⑧を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。高2対象進路出前授業を実施した。 | |
| 自己評価 | B (76.3%) | [反省・意見] ・生徒の現状に合わせ、⑥のハードルを下げたため（90%→50%）ポイントは上昇した。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者評価 | B | [意見・提言] ・検証、分析が必要。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | C | [意見・提言] ・自己評価のポイントは上がっているが、第一希望実現率を90%から50%に下げたことを考えると、満足できる結果とは思われません。 ・進路希望実現に向けての課題がどこにあるのかを、授業評価の結果等も参考にしてしっかり分析してほしいと思います。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 高2進路出前授業の実施を早い時期に。⑥の設定を高くしても実現できるように。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | |
|----------------------------|---|
| 評価項目8 | 家庭・地域との連携の推進 |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はA（87.8%）であった。 |
| 評価指標 | 日頃から保護者との連携を強め、学年通信、ホームページ等により、適切な学校の情報を提供する。 |
| 達成目標 (数値目標) | ① 学年通信を年間10回以上発行する。 ② 近隣中学校へ年2回以上訪問する。 ② 文化祭の参観数が前回を超える。 ⑦ オープンスクールの参加者数が前回を超える。 ⑧ PTA総会の出席者数を把握する。 ⑨ 学校ホームページを充実させるとともに、印刷物等で学校情報を公開する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。 |
| 実際の取り組み状況 | 上記①～⑥を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。 |
| 自己評価 | A (91.9%) [反省・意見] ・全項目について目標の達成ができた。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった |
| 学校関係者 評価 | A [意見・提言] ・開かれた学校を目指してほしい。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる |
| 第三者評価 | A [意見・提言] ・全項目について目標が達成できたことは大いに評価できます。 ・ブログ形式の学校情報発信といった新しい試みを今後も続けることが大切だと思います。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる |
| 次年度に向けての課題 | 保護者の信頼をさらに高める努力。 |

自己評価の基準

ア よくあてはまる **イ** ややあてはまる **ウ** あまりあてはまらない **エ** 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|--|---|
| 評価項目9 | 省エネルギーの実行 | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はA（93.2%）であった。 | |
| 評価指標 | 光熱水費や用紙等の無駄を省き、省エネやリサイクルに取り組んでいる。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ① 光熱費、暖房費を前年より減ずる。 ② 分別回収を徹底する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | 上記①～③を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。 事務室に電力消費の表を掲示し「見える化」をはかった。 | |
| 自己評価 | A (96.5%) | [反省・意見] ・①、②とも、生徒が特に意識せずに自然にできるようになってきた。 |
| 評価基準 | A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった | |
| 学校関係者評価 | A | [意見・提言] ・地道な努力が認められる。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | A | [意見・提言] ・自己評価のポイントが高いレベルでさらに上がっていることは素晴らしいと思います。 ・今後もこの状態を維持するとともに、子どもたちが自らより高い目標を目指すように指導してほしいと思います。 |
| 評価基準 | A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 省エネが日常当然のことになるように。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
 B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
 C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
 D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

| 平成28年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書 | | |
|----------------------------|---|---|
| 評価項目 10 | 特別指導の充実 (中学校) | |
| 現 状 | 昨年度の自己評価はB (75.7%) であった。 | |
| 評価指標 | 様々な体験活動や特色ある活動等が活発に行われている。 | |
| 達成目標 (数値目標) | ①□体験活動・職場訪問・ボランティア活動を各定期考査終了直後に実施する。 ③ 講演会を随時催す。 以上の項目につき、ア、イ (下記自己評価の基準を参照) の合計が85%以上を目指す。 | |
| 実際の取り組み状況 | ① ②、ともほぼ達成できた。 | |
| 自己評価 | B (79.4%) | [反省・意見] ・生徒がどんな体験、活動をしたいかの要望、希望も考慮に入れるべきという意見があった。 |
| 評価基準 | A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持にとどまった D: 現状より悪くなった | |
| 学校関係者 評価 | B | [意見・提言] ・中高全体での核となる生徒の育成に期待します。 |
| 評価基準 | A: 達成したと認められる B: ほぼ達成したと認められる C: 現状維持であると認められる D: 現状より悪くなったと認められる | |
| 第三者評価 | B | [意見・提言] ・教員が一方的に企画して与えるのではなく、自分たちに何ができるか、何をすべきかといった視点で、子どもたちが考えて実践戦することが重要だと思われます。 ・子どもの視点での企画が増えることを期待します。 |
| 評価基準 | A: 達成したと認められる B: ほぼ達成したと認められる C: 現状維持であると認められる D: 現状より悪くなったと認められる | |
| 次年度に向けての課題 | 生徒、保護者、学校が相互に信頼し合う状況作り。 | |

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

- ・自己評価は全教職員による。
- ・学校関係者評価は、PTA役員(保護者)、学校評議員、学識経験者等、本校関係者による。
- ・第三者評価は、株式会社プラネクス 教育コンサルタント 大西 貞憲 氏による。